

内閣総理大臣 佐藤 栄作

日本学術会議会長 朝永 振一郎

(写送付先: 科学技術所長官, 大蔵, 文部両大臣)

## 国立民族学研究博物館(仮称)の設置について(勧告)

標記のことについて、本会議第43回総会の議に基づき、下記のとおり勧告します。

## 記

政府は、わが国の民族学研究の重要性と、国際的な立ち遅れとにかんがみ、早急に国立民族学研究博物館(仮称)を設置し、資料の保存と総合的研究の推進、ならびに一般教育に資することを期せられたい。

## 説明

欧米における民族学の研究は海外各地よりもたらされた民族文化の標本資料に基づいて始められたが、わが国においては、かかる資料を収集してその保存と総合的な研究を行なう民族学研究博物館がまだない。

ことに戦後諸民族の生活は急激に変容しつつあり、これに伴って諸民族の固有文化及び民族学資料は湮滅に類せんとしており、これを調査収集して保存と研究を行なうことは焦眉の急に迫っている。民族学の最近における隣接諸科学との関係にもかんがみ、以上のようにして体系的、包括的に集められた資料を基礎として民族学を中軸とする人文、社会諸科学の興隆をはかり、かくて世界諸民族との連関における日本民族の正しい位置づけをもち、兼ねてはわが国国際的發展に資すると共に、さらにこれら資料を総合的に展示公開して一般教育に寄与することは何人もその重要性を感ずるところである。

日本学術会議は、日本民族学会をはじめとして関係諸学会の長年にわたる切実な要望に沿い、以下の諸理由を具して政府にその早急な設置を勧告する次第である。

## 理由

## 1. 文部省史料館収蔵庫その他との関係

民族学協会が多年にわたり収集し、付属研究博物館に収蔵していた民族学標本は昭和37年あげて文部省に寄贈せられ、現在東京都品川区戸越にある文部省史料館の収蔵庫に保存されている。これは近い将来設立せらるべき国立民族学研究博物館に移管せられる予想にたつ措置であり、したがって速かに当該博物館の設置によってこれら資料を活用し、斯学研究に役立たせることが望ましい。(日本民族学協会は其後財団としての協会と学会としての日本民族学会とに分離したが、前者は基金より生ずる利子から毎年民族学標本を購入収集し政府に寄付する予定である。)

なおその外にわが国内には明治以来海外から将来された民族学資料がかなり多く各所に散在しているが、その所蔵諸機関の中にかかる博物館の実現される場合には進んで提供するという申し出のものがある。また最近わが国の学術調査隊が各地よりもたらした資料もおびただしい数にのぼっているが、これらの資料が利用後、本博物館に移譲される予定のものが多い。

## 2. 1968年国際人類学民族学会議(東京)開催

日本における民族学の発達は、まだ日が浅いにもかかわらず世界学界の注目するところとなつてお

り、1964年モスクワにおける国際人類学民族会議の際、次回同会議を1968年東京において開催することが決定されたのである。

かかる世界国際学会のわが国民族学に対する期待と要望とに応じ、すでに日本学術会議の議を経て、この会議開催の準備は、着々と進められているのであるが、かかる国際会議はわが国民族学の水準を来訪する世界各国の学者に認識せしめる重要な機会であり、是非共1968年東京会議までに国立民族学研究博物館の設置を実現すべき緊急性を持つものである。(国際博物館会議(ICOM)は国際人類民族学連合(IUAES)に加入し、国際民族学博物館会議を催すことを計画している。)

### 3. 全国研究者の共同利用

国立民族学研究博物館は、全国研究者の共同利用機関であり、研究センターである。全国の研究者の為に、資料と施設を公開する共同利用機関とすると共に、対外的にもわが国民族学の中心機関とする。そのために次の如き事業が行なわれなければならない。

#### (1) 資料の交換

従来わが国の民族学標本の資料の収集には組織的交換収集が行なわれず、極めて偶発的であった。国立民族学研究博物館の設置により、世界諸民族の標本資料の交換収集を行えば、単に博物館のみならず、また各大学研究者にも、また世界の研究者、博物館の為に寄与するところは多大である。

#### (2) 研究者の交流

従来、民族学研究者の国際交流は組織的に行なわれなかったが、ここに国立民族学研究博物館が設置されるならば、学術研究交流の場ともなつて、わが国民族学の国際的発展の為に大いに寄与することができる。

#### (3) ライブラリーの充実とサービス

国立民族学研究博物館においては、民族学標本資料の他、図書館を付設、整備して、民族学研究書、調査報告書等の文献を始めとして、写真、映画フィルム、スライド、録音テープ、楽譜、地図、マニエスクリプト等民族学関係資料を強力に収集整備して、ライブラリーの充実を図り、広く研究者および教育諸機関に、研究資料または学校教材として利用せしめたい。

#### (4) 出版、講演等の事業

国立民族学研究博物館においては、所属研究員はもとより、広くわが国民族学研究者の調査研究の成果を、研究報告または調査報告として出版し、内外の研究者に頒布し、利用に供する事業を行なうと共に、研究者の為に研究会、また一般国民大衆の為に普及啓蒙的な講演会を催し、社会教育活動を併せ行なう。

#### (5) インフォメーションの提供

国立民族学研究博物館は民族学の普及発達のために、内外の民族学研究者ならびに一般国民大衆にインフォメーションの提供あるいはレファレンス・ワークを行なう。従来、わが国においてはかかるサービス機関が皆無であったので、必ずや国際的にも国内的にも、長年の要望に応えるものとなる。

### 4. 日本民俗学及び先史考古学との関係

国立民族学研究博物館は、広く世界の諸民族の文化の研究を目的としている為に、当然、日本の

基礎文化ないし生活文化（いわゆる民俗）の研究も包括されなければならない。また民族文化の歴史的研究は先史文化の研究とつながるもので、先史考古学的研究および資料収集も行なう。

これによって日本民族文化の正確な把握、世界及び歴史の中における位置づけが可能となる。

5. 大学における研究教育との関係

わが国大学教育における民族学ないし文化人類学の教育において物的標本資料を通じての教育を施すには従来多大の不便が感ぜられていた。民族学標本資料は、その材料、性質、形態などが複雑多岐にわたっているので、その収集保存の事業は国家的な組織と規模において行なうことが必要であるからである。かかる資料を体系的、統一的に収集し、分類整理し、保存する国立民族学研究博物館が設立されるならば、共同研究の場として各大学の民族学研究者に大いなる便益を与えるであろう。大学と民族学博物館とは欧米におけるように人的交流が自由に行なわれることが望ましい。

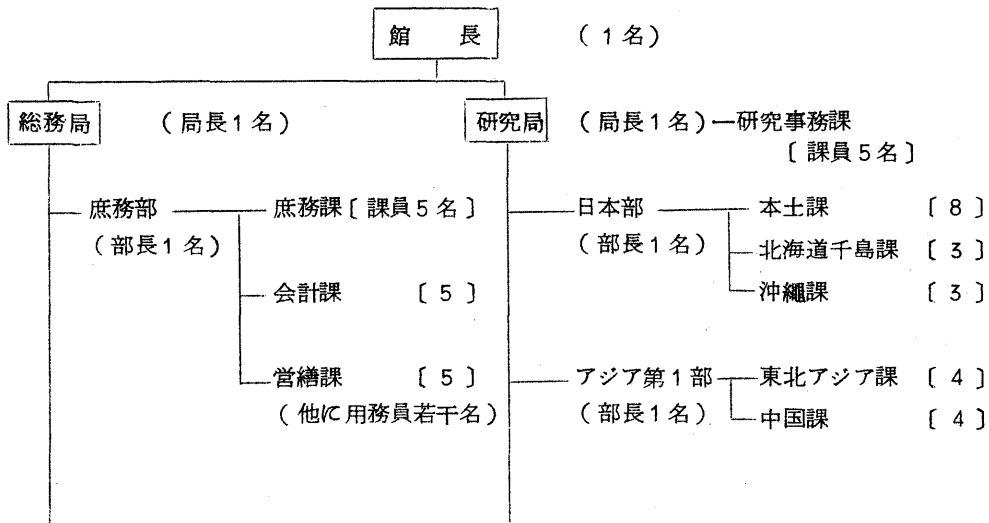
6. 総合的学術調査研究

民族学標本は物質的研究の対象たるのみならず、宗教、芸術、心理、社会等の諸研究とも重要な関連をもっている。従って国立民族学研究博物館の所属研究員は、その研究対象たる地域の諸民族の物質文化、ないし技術文化のみならず、精神、社会的文化をも研究し、諸民族文化が如何に構成され、いかなる歴史的発展をたどったかを究明すると共に現代において如何に変動しつつあるか、近代化の問題をも追究する。民族学博物館はかかる文化の総合研究の場として多大の効果を生むことが予測される。

7. 海外調査隊の派遣

民族学はその学問的性質上、諸民族の具体的研究を必要とするから、広く世界各地の諸民族の実地研究を行なわなければならない。これが為には、できるだけ多くの科学的調査隊を派遣しなければ、その実をあげることができない。諸外国における歴史に残る科学的調査隊は、博物館から派遣されたものが多く、国立民族学研究博物館は、かかる海外調査の企画、組織、実施などの仕事を一任務とする。

国立民族学研究博物館組織案



図書部 (1)  資料 展示部 (1)	図書課	[ 5 ]	アジア第2部 (部長1名) <ul style="list-style-type: none"> <li>東南アジア大陸課 [ 4 ]</li> <li>東南アジア島嶼課 [ 4 ]</li> <li>インド課 [ 4 ]</li> </ul>	
	写真録音課	[ 5 ]		
	出版課	[ 3 ]		
	目録課	[ 2 ]		アジア第3部 (部長1名) <ul style="list-style-type: none"> <li>西南アジア課 [ 4 ]</li> <li>中央アジア課 [ 4 ] (カウカサスを含む)</li> </ul>
	資料蒐収課	[ 2 ]		
	保存課	[ 3 ]		オセアニア部 (部長1名) <ul style="list-style-type: none"> <li>オーストラリア課 [ 4 ]</li> <li>島嶼課 [ 4 ]</li> </ul>
	展示課	[ 5 ]		
	社会教育課	[ 3 ]		アフリカ第1部——北アフリカ課 [ 4 ] (部長1名)
				アフリカ第2部——中南アフリカ課 [ 4 ] (部長1名)
				アメリカ部——北中央アメリカ課 [ 4 ] (部長1名) <ul style="list-style-type: none"> <li>南アメリカ課 [ 4 ]</li> </ul>
		ヨーロッパ部——ヨーロッパ課 [ 4 ] (部長1名)		
館長	1名			
総務局	47名			
研究局	85名			
計	133名			

国立民族学研究博物館所要面積

陳列室	3,000坪	研究室	900坪
準備室	25坪	会議室	20坪
工作室	30坪	大講堂	200坪
写真作業室	10坪	小講堂(含準備室)	150坪
暗室	5坪	図書館(書庫)	150坪
撮影室	15坪	図書館(一般閲覧)	50坪
録音室	10坪	図書館(研究閲覧・図書事務室)	20坪
標本燻蒸室	2坪	一般事務室	10坪
倉庫	300坪	受付	5坪
印刷室	20坪	食堂	40坪
目録室	30坪	喫茶	30坪
車庫	20坪	参考室	20坪
館長室	10坪	用務員室	10坪
応接室	10坪		